



音楽は偉大である

渡辺先生こんばんわ！

今日疲れて帰宅すると、息子がブルーのビー玉を得意げに見せつけてきました。

渡辺先生にもらった、と。割り算で神レベルにいった者だけがもらえる、と。

ふと、わたしも今日職場で母の日の製作を行う際、絵の具を付けたビー玉をコロコロ転がしたなあ、と。

同じビー玉でも価値が全然ちがいますね！息子は渡辺先生にもらったブルーのビー玉をチョコレートの小瓶に入れて自分の机に飾っていました。

そののち、楽しみにしている Venture fourth を拝読している最中、お風呂へ行った息子と妹の小競り合いが始まりました。

兄妹ゲンカにはうんざりの毎日ですが… 最新号 29 号の話題の「風になりたい」の曲を試しに流してみたところ、、、

全裸の息子が踊り出しました。

あまりの滑稽なダンスに妹も私も爆笑で、ただただ陽気で楽しい空気に包まれました(≧▽≦)

早速我が家でもその“効能”にあやかることができました～！！すごいですね^^

ペンネーム「MMS」さんより

いやー笑いました！

職員室で MMS さんのお便りを読んで笑いをこらえきれず、パソコンに向かって笑い続ける私を見て他の先生方が不思議そうな表情を浮かべていました(笑)。

音楽の力は、やはり偉大ですね。

他のご家庭でも、家で「風になりたい」を歌い続けるお兄ちゃんの声聴いて、幼稚園児の弟が歌を全て覚えてしまったという話も聞きました。

気づけば、私自身も鼻歌を口ずさみながら風になりたいがっている瞬間が増えたように思います。

こう考えると、本当に不思議ですよ。

色んな旋律や歌詞の重なりが耳に入ってくるだけで、心弾んだり陽気になったりができるわけですから。

「音楽療法」にも代表されるように、音楽のもつ力はやはり果てしないです。

尚、音楽療法とは、音楽を聞いたり演奏したりする際の生理的・心理的・社会的な効果を応用して、心身の健康の回復、向上をはかる事を目的とする健康法、代替医療あるいは補完医療のこと。

私も、気持ちが落ち込んだ時などは、一人静かにバイオリンを奏でることがあります。

そして、ひとしきり演奏を終えると、明らかに心が軽くなっていることを実感するので。

そんな時にふと、「音楽はなぜ生まれたのか」を考えてみたりもします。

多分、最初の音楽は歌だったでしょう。

小鳥のさえずりなど動物の鳴き声を真似してはじまったのかもしれませんが。歩いたりするときや、石器を作ったりするときのリズムからはじまったことも考えられます。

雨乞いなど、願いを強くあらわしたいときに始まった可能性もあるでしょう。音楽は、儀式や祭りを通じて広がり、深まっていったと何かの本で読んだことがあります。

いずれにしても、音楽は歴史の中に残りました。

数千年間人間と共に歩み、今も我々の中にあります。

きっと、そこには理屈では語れない何か大切なものがあるのでしょう。

ちなみに、今教室でよくかけている曲は「風になりたい」ですが、以前担任した札幌のクラスでは「Dear my friend」という曲をよくかけていました。HI-standardというロックバンドの曲です。

日本語に訳すと、「親愛なる友へ」という意味。

実はこの曲も、私にとって非常に思い入れの一曲です。

以前担任した6年生のクラス。
その子たちの中に、ギターを習い始めた子がいました。
お父さんに教えてもらっているのだそうです。
教室の片隅にいつも置いてあるギターを触りに来ることもしばしばでした。
そんなにおしゃべりな子ではなく、むしろ結構控えめな子だったことを覚えて
います。
けれど、ギターを弾く姿はとても楽しそうでした。
休み時間、あるいは放課後。
ギターをかき鳴らしながら、色んな歌と一緒に歌った思い出があります。

そして、その子たちを卒業生として見送った数年後のことです。
職員室で、あるうわさを聞きました。
卒業生たちが大学に進学してから組んだバンドが中々の人気で、学祭の
ステージも大いに盛り上がったらしいのです。
フーン誰だろう。
と聞いていたら、何と先の6年生の男の子が組んだバンドでした。
しかも、スリーピースバンド（ギター、ベース、ドラム）の内、ギタード
ラムの2人が、元渡辺学級の子どもだったのです。
実際に見に行ったライブで久しぶりの再会を果たし、昔話で大いに盛り上
がったのでした。
そして、大学生になったその子たちは言いました。
「先生と一緒にバンドやりたいです！」
そこからはトントン拍子で話が進み、人生で初めて教え子とバンドを組む
ことになりました。
その時に演奏したのが、「Dear my friend」です。
演奏中は、お互いに話すわけではありません。
しかし、経験された方は分かると思いますが、演奏中の「会話」は確かに
あります。
「先生、もっとノッてください！」
「分かった分かった(笑)」
「いい音ですね～」
「〇〇もホントに上手くなったな。」
一曲だけの飛び入りバンド。
演奏はあっという間に終わりました。
けれど、感じたことの無い高揚感がありました。
教え子の成長も、卒業式で別れてから歩んできた互いの歴史も、再会の喜
びも、色んなものが詰まった演奏だと感じた瞬間でした。
ですから、この曲を聞くたびにその時のことを思い出します。

「風になりたい」にも実は同じように、素敵なエピソードとセットになった思い出の一曲でもあるというわけです。

4-1のみんなにも、もしかしたら人生でそんな一曲との出会いがあるかもしれません。

そういえば、先週の道德の時に、初めてカンボジアに行った時のした一幕がありましたね。

当時のことを思い出して以前書いた文章があるので、抜粋で紹介します。

＝＝

カンボジアで、一人の路上ミュージシャンに出会った。

彼は、地雷によって片方の足を失っていた。

歩くことすら満足にできなくても、その元気な両腕を使って陽気に路上で演奏をしていた。

同じく音楽を愛するものとして、何かできることはないかと思った。

演奏している彼の足元には、お金を入れる缶が置いてある。

いわゆる「おひねり」を入れるものなのだろう。

お金を缶の中に入れようと思って近づき、私は足を止める。

けれど、やっぱりやめた。

お金を入れるんじゃなくて、もっと別の方法でこの思いを伝えたいと思った。

私は、バイオリンを取りに戻った。

そして、再びそのミュージシャンの所へもどった。

ケースを開け、楽器を構え、その人の奏でる音楽にそっとお邪魔した。

彼は気づいてこちらを見た。

目線が合う。

そして、私を見てニッコリを微笑んでくれた。

言葉は一切交わしていない。

そもそも、私はクメール語が話せない。

けれど、何度も「会話」をした。

彼は、とてもおしゃべりで陽気だった。

しばらく2人で演奏していると、日本人とカンボジア人が何かやっていると感じた沿道の人たちが集まってきた。

そして、大きな拍手を送ってくれた。

これだから音楽はやめられない。

同じ事は、中国でもラオスでもベトナムでも起きた。

中国雲南省、「石林」という世界遺産に行った時。

民族音楽を奏でている一行に遭遇した。

手を叩き、相槌を打ちながら聞いていると、不意に一人の男性が私に楽器を渡してくれた。

「弾けるんじゃないか？」という仕草で。

「音楽好きなんだろ？」とも言われた気がした。

弾いたことのことの無い楽器。けれども、そのあと10分ほど一緒に陽気に演奏した。最後には肩を組んで踊りながら演奏した。

音楽は、やっぱり偉大である。



=====

音楽の話で、止まらなくなってしまいました。すいません。

4-1でも、その素晴らしい効能を日々感じているため、ついつい筆が止まらなくなってしまいました。

音楽の力を借りて、教室にもたくさんの笑顔を生んでいきたいと思います。

(お気に入りの一曲や、それにまつわるエピソードなどあれば、ぜひ気軽に教えてください。)

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

